

平成30年度 事業報告書

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5丁目14-16

I 公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

① 蔵書収集

書籍 122 点を購入。このほか個人及び団体からの 103 点の寄贈を受け付けた。

② 閲覧・貸出し

開館日時・日数、ならびに利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

<開館日時・日数>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第3水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

開館日数 237 日

<利用状況>

利用者数 1,456 人、新規利用登録者数 91 人、貸出し冊数 282 点

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第27回アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。

講座題目：『カンボジアの大型影絵芝居「スバエク・トム」～暮らしの中に生きる芸能の魅力～』

講演者：福富友子（ふくとみ・ともこ 東京外国語大学カンボジア語非常勤講師）

開催日：平成31年2月24日

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：25人

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人及び個人からの依頼を受けて年間33件の翻訳案件を処理した。

(4) 三鷹市立図書館との協働事業関連

「三鷹市立南部図書館みんなみ」（当法人三鷹本部社屋1階。以下「南部図書館」という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

- ① 南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対して、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した（前年度から継続実施）。

- ② 南部図書館の開館記念日行事「みんなみフェスタ」が平成30年11月23日に開催された。概要は以下の通り。

〈午前の部〉

「ハングル習字体験」を開催。指導役として専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加した。

開催場所：三鷹市立南部図書館みんなみ（三鷹本部社屋1階）

参加者数：子供4人、大人12人、計16人

〈午後の部〉

インドネシアの影絵人形芝居公演の開催に協力した。

企画名：『ワヤン・クリッ「鬼女になった姫」』

演者：梅田一座（座長 梅田英春(うめだ・ひではる) 静岡文化芸術大学教授)

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：62人

〈終日〉

「まなびテラス」で行われたカフェ・サービスの活動に専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加した。

- ③ アジア・アフリカ図書館所蔵の図書を南部図書館で展示し、貸出希望の場合は南部図書館経由してアジア・アフリカ図書館で貸出手続きを行う取り組みを行った（前年度から継続実施）。

(5) その他

- ① インドネシアのワヤンを中心としたアジアの影絵芝居に関する常設展示を企画、開催した。

展覧会名：『インドネシアのワヤンーアジアの影絵芝居の世界』

展示内容：当館所蔵のワヤン関連の書籍をパネルと現物展示で紹介。また、梅田英春氏より同氏所蔵のワヤンの実物を借用し展示を行った。

開催期間：平成30年11月2日から（平成31年3月まで継続開催）

開催場所：アジア・アフリカ図書館閲覧室（三鷹本部社屋2階）

- ② 当図書館の情報発信の媒体「アジア・アフリカ図書館だより」の復刊第4号を発刊した（平成30年8月）。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第 124 条に基づく専修学校専門課程の教育

留学生を対象とした日本語学科は 1 年・1.5 年・2 年の 3 コースを開講した（総定員 140 人）。また日本語教育学科（全日制 2 年、総定員 20 人）は第 2 期生を迎え入れ、2 学年を開講した。アジア系語学科では韓国語学科（全日制 1 年、総定員 20 人）を開講、第 1 期生を迎え入れ授業を行った。インド語学科については新規の入学者はなく、次年度開講に向けて継続的に募集活動を行った。平成 30 年度の各学科の開講実績は以下の通り。

〈入学・在籍者数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生等は除く

日本語学科

平成 30 年 4 月 入学 進学 2 年コース(58 期) 在籍者数 14 人(30 年 4 月時点)
平成 30 年 10 月 入学 進学 1.5 年コース(59 期) 在籍者数 24 人(30 年 4 月時点)
平成 30 年 4 月 入学 進学 2 年コース(60 期) 入学者数 31 人(うち編入 16 人)
平成 30 年 4 月 入学 進学 1 年コース(60 期) 入学者数 43 人
平成 30 年 10 月 入学 進学 1.5 年コース(61 期) 入学者数 40 人

日本語教育学科

平成 30 年 4 月 入学 (1 期) 在籍者数 6 人(30 年 4 月時点)
平成 30 年 4 月 入学 (2 期) 入学者数 9 人

韓国語学科

平成 30 年 4 月 入学 (1 期) 入学者数 2 人

〈卒業生数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生等は除く

平成 30 年度の卒業生数は 87 人

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座を実施した。また、前年度に引き続き日本語の夏季短期語学留学クラスを企画し実施した。三鷹ネットワーク大学においては、語学の体験講座の他、教養講座も実施した。おもな開講講座及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 ※ 受講人数は延人数

ロシア語入門～初級 計 12 人

《特別講座》 ※ 受講人数は延人数

アラビア語語学講座各種（基礎構文、エジプト・アラビア語会話、アラビア語講読、文法復習など）、アラビア書道、中国語中級、韓国語入門～初級、韓国語上級、ロシア語上級、インドネシア語ブラッシュアップ 計 155 人

《プライベートレッスン》

インドネシア語、アラビア語 2 件

《日本語サマーコース》

期 間：平成 30 年 7 月～同 9 月 受講生数：26 人

《三鷹ネットワーク大学における講座》

【語学講座】

春季体験講座・インドネシア語 他 全8言語 計80人（平成30年4月）

秋季体験講座・ベトナム語 他 全8言語 計45人（平成30年10月）

特別体験講座・アラビア語 2回合計19人（平成30年12月）

【教養講座】

「学習障害・発達障害のある日本語学習者とどう向き合うか」26人（平成30年8月）

「日本語教師になるための基礎講座」26人（平成31年3月）

(イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。

《語学研修》

アラビア語1件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

三鷹市内在住の外国人子弟を対象とした「日本語教育支援プログラム」について、近年応募者が少なく実施を見送ることが続いたため、平成30年度は募集を行わず、三鷹市教育委員会などから情報を収集するなどの活動を行った。

(2) 学生寄宿舎の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」（ゆうほうかん、全20室・基本入居可能人数23人）と「青雲公寓」（せいいうんこうぐう、全4室・基本入居可能人数8人）を使用し、運営した。平成30年度の年間稼働率は、有朋館、青雲公寓ともに100%だった。このほか、近隣の民間賃貸物件48室も寄宿舎として利用した。

(3) その他

ア 市内の小学生や高校生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校や私立高校の生徒らと日本語学科留学生が交流する活動を行った（平成30年12月）。

イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。専門学校アジア・アフリカ語学院のテントショップや各種イベントの運営に携わった（平成30年9月）。また、同留学生らは、自治会などが主催する地域の夏祭りなど地域の行事にも参加した。

ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

日本語教育関連プログラムを履修している大学生に対して、現場実習の一環として、日本語学科の授業を公開した（近隣私立大学1校、計2回）。

3 国際交流事業（人材交流活動）

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

将来日本での大学進学を目指す中国の高校生に対して、E J U（日本留学試験）の受験や専門学校アジア・アフリカ語学院での授業見学など日本留学体験プログラムを企画し実施した。

<参加者> 武漢外国語学校生 8名

<見学日時> 平成30年6月18日

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施 ならびにこれに係る職業紹介

- ① 中国の外国人技能実習生送出し機関に勤務する中国人日本語教員を対象として、専門学校アジア・アフリカ語学院での授業見学や教員交流などの教育プログラムを企画し実施した。

<研修者> 中国人日本語教員2名（山東ス凱特経貿発展有限公司 勤務）

<研修日時> 平成30年9月10日から同14日、09:00～15:00

<研修内容> 日本語学科授業見学、日本語教授法、等

- ② 専門学校アジア・アフリカ語学院に勤務する当法人教職員を中国の外国人技能実習生送出し機関が運営する研修センターへ派遣し、同センターにおける日本語教育の現場の視察および同センターの教職員との教員交流を行った。

<派遣者> 長江文清（事務局次長）

長谷川公江（日本語教育学科学科主任）

<派遣先> 山東ス凱特経貿発展有限公司（中国山東省章丘）

<派遣期間> 平成30年10月25日から同28日

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

- ① 本部と文京支所（東京都文京区西片）が連携して業務を遂行した。受入れ実習生の講習場所は前年度同様、茨城県美浦村の研修センターを利用した。
- ② 平成 29 年 11 月 1 日に施行された「新技能実習法（外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律）」に則り、新制度における監理事業を行った。
- ③ 平成 31 年 3 月末時点における本業務の概況は以下の通り。
受入れ技能実習生数：616 人（1 号 246 人、2 号 346 人、3 号 24 人）
実習実施機関数：8 社 16 機関
提携送出し機関数：8 機関（中国 6、ベトナム 2）

(2) 日本語教育普及活動

平成 30 年 1 月に開設したミャンマー支所「SHAN JAPANESE CENTER（シャン・ジャパニーズ・センター。ミャンマー連邦共和国シャン州タウンジー所在）」を拠点に、日本語普及活動や日本留学の情報提供、日本文化の発信などに取り組んだ。

平成 30 年度はとくに事業についての広報活動に重点を置き、新聞や雑誌媒体への広告掲載、ポスターやパンフレットの配布などを行った。またセンターにおける日本語教育については、入門から J L P T（日本語能力試験）N 4 レベルまでの教育体制が整い、受講生の中から日本語能力試験の N 5 に 21 名、N 4 に 5 名の合格者を輩出した（2018 年度第 1 回、同第 2 回の合計）。センターでの日本語学習者数は、開所から平成 31 年 3 月までの累計で 327 人となった。

Ⅱ その他の法人業務の状況

1 会員

平成 31 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	9 名	
特別会員（法人、団体）	1 社	
賛助会員※（法人、団体）	7 社	※ 技能実習生受入れ企業が対象

2 その他

とくになし。

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成30年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上